



2020年、朝鮮半島情勢

(米朝、日韓関係を中心に)

激変期の勝利に向けた最後の旅程

7つのキーワード

こう着状態の米朝関係



米朝、こう着状態の長期化

- 対話での交渉放棄 - 制圧するだろう
 - 2018年の米朝対話後、北が得たもの:「米国が与えたものは裏切り行為のみ」、「米国の本心は、対話と協商の看板を掲げて、のらりくらりして自分の政治外交的利益をはかると同時に、制裁を引き続き維持して、われわれの力を次第に消耗、弱化させること」
 - 「強盗さながらのダブルスタンダード行為」をみると、「米国はわれわれに核問題でなくても、また別の何かを標的にして攻撃し、米国の軍事・政治的脅威は終わらないだろう」
 - 現在のような米国の態度に根本的変化なしには、対話と交渉を行わないという立場を明確にした。



- 南を通じてのトランプの親書ではなく、直接受け取った。
- 米国が要求を受け入れてこそ対話再開が可能だとクギをさし「米国が準備が出来ておらず、またそうできないことも良く知っている」と付け加えた。
- トップダウン方式も可能ではない。

2018年6月12日、シンガポール宣言



北

米

米軍の遺骨返還

東倉里、核実験場の
閉鎖

核実験の中断

特になく、非核化だけ
を繰り返す米国

2019. 02. 28

ハノイ会談



米国の立場



- ・寧辺の核施設廃棄とプラス α の可視的非核化措置
- ・寧辺以外に大きな核施設がある
- ・完全で不可逆的な非核化

北の立場



- ・核・ミサイル実験の中断
- ・寧辺の核施設を廃棄
- ・相応措置として制裁緩和を要求

最高人民會議

施政演說

핵위협을 핵으로 종식시킨 것처럼, 제재돌풍을 자립, 자력의 열풍으로 쓸어버려야

남북의 화해협력과 민족의 평화로운 공동번영은 확고부동한 결심

한국은 중재자·촉진자 행세를 할게 아니라 민족의 이익을 옹호하는 당사자가 되어야

대화와 협상을 통한 문제해결을 중시하지만, 자기요구만을 들이 먹이려고 하는 미국식 대화법에는 체질적으로 맞지 않고 흥미도 없다.



미국이 올바른 자세와 방법으로 3차 북미정상회담을 하자고 하면 한 번은 더 해볼 용의가 있다.

2019. 4. 12.

2019年6月30日、南北米首脳が板門店に



北、板門店「朝米会談」報道
「朝米対話、再開合意」

2019年10月5日、朝米実務会談



「米国は手ぶらで来た」
朝米交渉、決裂

2019年12月、「斬首部隊」が再び動き出した 北への圧力を強化



韓米特殊部隊が「北への仮想襲撃訓練」



12月25日、E-8Cジョイント・スターズ、RC-135Sコブラボールなど、**米空軍偵察機5台が朝鮮半島に展開**



正面突破

長期のこう着局面、自力更生vs制裁

- **〈自力更生と制裁〉局面、自力更生で制裁を突破し、外部の侵略脅威に備える「戦略兵器の開発」を進め、現情勢に対処するための外交前線を強化するという正面突破を宣言**

正面突破戦の目標

- 正面突破戦の目標は「敵対勢力の制裁圧力を無力化させ、社会主義建設の新たな活路を開くもの」だとし、「社会主義強国の遠大な抱負と理想を早く実現するもの」とした。
- (1) 当面の目標は ▲ 国家経済の土台を再整備し、可能な生産潜在力を総発動させ、経済発展と人民生活に必要な需要を十分に保障すること、▲米国の北への敵対政策を廃棄させ、朝鮮半島の平和体制を打ち立てること
(2) 展望の目標は、社会主義強国の建設だと規定した。
- – 正面突破戦の自信も表している。「今後、米国が時間を引き延ばせば引き延ばすほど、朝米関係の決算を躊躇するならするだけ、予測できないほど強大となる朝鮮民主主義人民共和国の威力の前に、無策でやられるしかなく、さらに袋小路に追い込まれる」としている。

戰略兵器

김 위원장 “새 전략무기 보게 될 것”

1tv

전당과 온 사회를 김일성 - 김정일주의화하자!

김정은 동지 만수무강하다

조선민주주의인민공화국 만수무강하다

朝鮮中央TV

「世界は遠からず朝鮮民主主義人民共和国が保有することになる新しい戦略兵器を目撃するだろう」

北、戦略兵器の開発へ

北は、1月21日に開催された国連軍縮会議で、米国が「非核化の年末時限」を無視したので、北としてももはや核実験と大陸間弾道ミサイル(ICBM)の発射を行わないという約束に囚われないと明らかにした。

また、「米国が対話の再開を言っているが、最初から北への敵対政策を撤回する意図が全くなかった」としつつ、「米国が敵対政策を放棄し、朝鮮半島の持続的な平和を望む前には、今後も国家安保に必要な戦略兵器を開発するだろう」と述べている。

軍事的攻勢 – 衝撃的な実際の行動、緊張 持続の可能性も

- 軍事的攻勢への言及は、▲これ以上、核実験やミサイル実験の中止約束にとらわれないとし、▲「われわれを相手に恐れ気もなく武力を使おうとは思えないように」、「無敵の軍事力を保有し強化し続ける」と述べた。
- また、「守ってくれる相手もない約束に、われわれがこれ以上一方的にとられる根拠がなくなり、これは世界的な核軍縮と核拡散防止のためのわれわれの努力にも冷や水を浴びせている」とした。

上向調整

김 위원장 “새 전략무기 보게 될 것”

JTBC

朝鮮中央TV

「われわれの抑止力強化の幅と深度は
米国の今後の立場により上向調整されるだろう」

戦争危機をあおる韓国の保守マスコミ

朝鮮日報

米国、3~4月に韓米合同軍事演習の準備へ

米国内部で「北に圧力を強めろ」と声が
サード配備も強行の声

마크 에스퍼 미 국방장관은 2일 “수개월간 상황 전개를 살펴보겠다”며 한·미 연합훈련 재개 가능성을 비쳤다. 한·미가 보통 매년 3~4월 실시해왔던 키리졸브 연습 및 독수리 훈련 재개가 우선 검토 대상이 될 것이란 전망이 나온다.

키리졸브 연습은 북한의 전면전 도발에 대비해 한·미가 병력과 장비의 기동 없이 컴퓨터를 동원해 하던 지휘소 연습

(CPX)이다. 독수리 훈련은 키리졸브에 바로 뒤이어 대규모 병력과 장비를 투입, 상륙 훈련과 북 특수부대 침투 대응 훈련 등 야외 기동 훈련으로 실시됐다. 하지만 지난해엔 비핵화 협상 촉진을 이유로 키리졸브는 ‘19-1 동맹’ 연습으로 명칭을 바꾸었고 반격 훈련도 생략했다. 독수리 훈련은 대대급 이하 연합훈련으로 규모가 대폭 축소됐다.

미 국방장관이 이례적으로 연합훈련 재개 카드를 꺼낸 것은 김정은 북 국무위원장이 지난 1일 ‘새로운 전략무기 목적’ ‘충격적 실제 행동’ 등을 언급함에 따라 북한의 신형 ICBM 발사 등 고강도 도

발을 억제하기 위한 것으로 보인다. 미국은 2018년 싱가포르 미·북 정상회담 이후 한·미 훈련을 축소·중단해 왔다. 한·미 훈련 재개는 미·북 간 합의가 사실상 백지화될 수 있는 신호로 해석될 수 있다. 군 소식통은 “미 국방장관이 처음으로 연합훈련 재개를 공개 언급한 것은 북한의 추가 도발에 대한 미국의 경고 수준이 심각한 것임을 보여주는 것”이라고 말했다.

앞서 존 볼턴 전 미 국가안보보좌관은 지난 1일 “미국은 한국에서 취소되거나 축소된 모든 군사훈련을 전면 재개해야 한다”고 주장했다. 미 상원 외교위원회

2020년 01월 04일 토요일 A03면

민주당 간사인 로버트 메넨데스 의원은 2일(현지 시각) CNN방송 인터뷰에서 “한·미 연합훈련 취소는 이득 없이 김정은에게 엄청난 선물을 준 것”이라며 “트럼프 대통령은 김정은을 국제적 왕따에서 꺼내주고 국제사회에서 받아들여지게 해줬다”고 지적했다.

크리스천 휘턴 미 국익연구소 선임연구원은 이날 폭스뉴스 기고문에서 “한국 정부에 사드를 추가 구매하도록 압박해야 한다”면서 “한국이 협력을 거부하면 (사드를) 괌이나 일본 오키나와에 배치하는 쪽으로 협상할 수 있을 것”이라고 했다. 중국이 사드 추가 배치를 막기 위해서라도 북한의 무력 도발을 자제시키려 할 수 있다는 것이다.

유용원 군사전문기자, 노석조 기자

非対称の相応な措置

- 米国が韓米合同軍事演習を再開したり、北への制裁緩和などにより
- 相応の非対称的な措置を取るという警告だろう。

2020北朝鮮「新たな道」キーワード

南	0回
トランプ	0回



当事者になるべき
文在寅政府

文大統領、「平和は行動なくして来ない。 南北関係においても行動の幅を広げて行く」

「朝米対話こう着の中で…
南北協力を増進させる現実的
な方策を模索する必要性」



南北協力5つの提案

接境地域の協力

スポーツ交流

鉄道・道路の連結

非武装地帯の国際平和地帯

6.15の20周年共同行事

文在寅政府、当事者になるように

文正仁 特別補佐官

韓国政府は、中露の
北への制裁緩和案を
支持するだろう



문정인 대통령 통일외교안보 특별보좌관은 6일(현지시간) 미국 워싱턴 DC에서 열린 국가이익센터(CNI) 행사에서 기조 연설자로 참석해 "우리는 중국과 러시아가 제안한 대북 제재 완화 결의안을 생각해보아야 한다"며 "스냅백 제재 완화 제안은 북한의 행동을 변화시킬지도 모른다"고 말했다.

ハリス駐韓米国大使、「北への個別観光」推進は「米国と協議すべき」



- 「制裁下でも観光は許される。でも、旅行の持ち物には許されない物もあり得る。」
- 「観光客がどうやって行くのか？中国経由で行くのか？DMZ（非武装地帯）を通過して行くのか？国連軍司令部とも関連している。戻ってくるときは、どうするつもりなのか？」

自主的意識の拡がり

キャンドル以後、大きな変化



「金がないなら出て行け」
「同盟なのか、強盗なのか」

- 米国への観点に根本的な変化が起きている
- 朝鮮半島で大きな米国反対の闘いがあった（2002年米軍による女子中学生轢殺への闘い、2006年韓米FTA闘争、2008年米国産牛肉輸入反対闘争など）
- しかし「米国は出て行け」という声はなかった。
- 大きな変化が始まっている



NO 安倍!

朝鮮半島情勢の示唆

1. 朝鮮半島の根本問題は分断・停戦体制vs平和をめぐる朝米対決の深化
2. 朝鮮半島の緊張が高まる
→ 3月の韓米合同軍事演習（キーリゾルブ）阻止は大変重要

最後の山場に差しかかっている

安倍の軍国主義
武装化と
日韓市民の連帯

日韓関係の流れ

1) 強制動員[徴用工]関連、大法院判決(2012年)、差戻し判決、司法の私物化

- 朴槿恵-安倍による日本軍「慰安婦」問題の野合(2015年12月)
- 日韓軍事情報包括保護協定(GSOMIA)、締結(2016年11月)
 - * 日韓物品役務相互支援協定(ACSA)、推進論議(2段階)
 - * 有事の兵力派遣(3段階)、軍事協定問題、日米韓軍事同盟(?)
- 司法の私物化(朴槿恵政権時の司法介入 - ヤン・スンテ大法院長を通じて)

2) キャンドルの闘いとキャンドル政府の発足

- 「慰安婦」問題野合は事実上破棄、強制動員の法的責任を認める大法院判決

3) 安倍政権の奇襲攻撃(2019.7. 1)、ホワイトリスト国からの排除

- 日韓軍事情報包括保護協定(GSOMIA) の延長中断を通告(2019年8月22日)
 - 2019.11.23終了予定だったが、直前に条件付き延長、WTO提訴の停止
- 韓国政府、輸出規制撤回とホワイトリスト国の復帰を要求、「条件付き」延期を強調(2月12日)

NO安倍の闘いと、その意味

1) キャンドル市民＋日本の改憲反対(平和)勢力

VS 安倍政権＋韓国内の手先マスコミ＋韓国内の手先政党

2) 中間評価: 安倍政権の計算違い(キャンドル政権を手なづけようと思論んでいた)

- 自由韓国党などの外交失敗攻勢、財閥企業の不安感加重
- 奇襲攻勢に仰天し屈服させようとしたが、一定程度の防御線が構築された

3) ‘日本への経済依存’ 脱皮の可能性

- 財閥企業の生存戦略としても、サプライチェーンの多変化は避けられない
- 旅行ボイコットで日本の地方都市が経済的打撃

4) 東アジアの平和体制推進で、息継ぎができる状況が作られる

- 日米韓の垂直型軍事同盟推進に亀裂を作った
- 中国と日米の間でバランスをとれる一種の出発点の役割

日韓関係の展望

- 1) 日韓軍事情報包括保護協定(GSOMIA)破棄の試み
 - 金メダリスト: 安倍政権のゴリ押し
 - 銀メダリスト: NO安倍「アンサ」[買わない!]、NO安倍「アンガ」[行かない!]
 - 銅メダリスト: NO安倍キャンドル
- 2) 安倍政権は諦めず、軍事大国化と改憲を進めると予想される
 - 経済報復中断とGSOMIA延長問題
 - 強制動員[徴用工]問題、賠償金の強制執行など
- 3) 日本の平和憲法9条を守る動き
 - 韓国バッシングの支持世論は結構高いものの、
 - 改憲はダメという世論も過半数以上
- 4) 安倍四選の可能性は？ 改憲の可能性は？
- 5) 日本の平和憲法を守る闘い(NO安倍)と韓国のNO安倍の闘い、積極的連帯の必要